

渡辺華山と弟子たち

知られざる画家 井上竹逸^{ちくいつ}と小田莆川^{ほせん}

©初公開資料

平成31年3月30日(土)～5月19日(日)

作者	作品名	制作年	材質形状	備考
渡辺華山	糸瓜俳画	天保年間	紙本淡彩	掛幅
渡辺華山	「耐煩」二大字額	天保9年(1838)	絹本墨書	額
渡辺華山	青緑山水図	文政年間	紙本淡彩	掛幅 椿家伝来
渡辺小華	四君交結図(双幅 青緑山水図添幅)	慶応2年(1866)	紙本淡彩	掛幅
渡辺華山	墨蘭図画冊	天保5年(1834)	紙本墨画淡彩	画帖 贈椿華谷 個人蔵
井上竹逸	干公高門図模本	安政5年(1858)	紙本淡彩	掛幅
井上竹逸	秋景山水図	元治元年(1864)	紙本淡彩	掛幅
◎ 井上竹逸	春景山水図	明治8年(1875)	絹本淡彩	掛幅 個人蔵
井上竹逸	山水図	明治時代	紙本淡彩	掛幅
◎ 井上竹逸	春景山水図	元治元年(1864)	紙本淡彩	掛幅 個人蔵
斎藤香玉	秋景山水図	江戸時代	紙本淡彩	掛幅
福田半香	山水図	江戸時代	紙本淡彩	掛幅 個人蔵
福田半香	富貴木蓮図	江戸時代	絹本着色	掛幅
福田半香	菊花湖石図	安政2年(1855)	絹本着色	掛幅
小田莆川	花鳥図	弘化元年(1844)	絹本着色	掛幅
小田莆川	桃に蘭図	江戸時代	絹本着色	掛幅
小田莆川	紅梅鴛鴦図	江戸時代	絹本着色	掛幅
小田莆川	闔家全慶図	弘化元年(1844)	絹本着色	掛幅
小田莆川	孔雀図	江戸時代	紙本墨画	掛幅
◎ 椿椿山 菊池五山ほか	東都名家書画	弘化元年(1844)	絹本淡彩	掛幅 個人蔵
◎ 椿椿山 小田莆川 高隆古ほか	六家合作花卉図	天保14年(1843)	絹本淡彩	掛幅 個人蔵
◎ 椿 椿山	三愛図	嘉永6年(1853)	布地淡彩	掛幅
井上竹逸	山水人物	明治時代	紙本淡彩	捲り
井上竹逸	山水人物図	明治時代	紙本淡彩	捲り 個人蔵
井上竹逸	山水人物(安政名家帖のうち)	江戸時代	紙本淡彩	冊子
井上竹逸	万里長江巻	明治11年(1878)	紙本墨書	横巻
小田莆川	卯の花に カミキリムシ	江戸時代	紙本淡彩	掛幅
小田莆川	客坐縮図(十二冊のうち五冊)	～弘化3年(1846)	紙本淡彩	冊子
渡辺華山	谷氏画纂	文化期	紙本墨書	冊子
渡辺華山	読萬留帳(三冊)	文政年間	紙本墨書	冊子
椿 椿山	過眼録(十四冊)	天保～嘉永	紙本淡彩	冊子

過眼録・客坐縮図とは

これらの冊子は画家のメモ帳で、スケッチ、画の写しなど、自らの作画活動の参考とするために書き溜めたものです。画家たちがどのようなものに興味を持っていたかを知るうえでも重要であるし、当時どのような書画、文物が存在したかのデータベースとしても注目されます。

田原市博物館

〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江11-1

Tel 0531-22-1720

<http://www.taharamuseum.gr.jp>

作品の形状などについて

展示作品は、和紙(紙本)や絹地(絹本)に描かれています。また墨のみのもの(墨画)、色を加えたもの(淡彩・着色)などがあります。作品は完成したら、捲り状態から鑑賞のために掛軸(かけじく・掛幅)、巻子(かんす・横巻)などに仕立てられます。絵画作品を巻いて保管すると、画面が保護されるとともに、場所をとらずにすむという利点があります。

特集 「知られざる画家 井上竹逸と小田莆川」によせて

井上竹逸、小田莆川、この両者を知る方は渡辺崋山を勉強している方以外ほとんどいないと思います。かつて大槻如電（おおつきじょでん）が、「崋山十哲」と題した崋山の「画」弟子の履歴を書いた文献があります（明治35・36年、国華150～154号）。そこには十哲、十大弟子として椿椿山、福田半香、平井顯斎、永村茜山、斎藤香玉、金子豊水、山本栞谷、小田莆川、井上竹逸、立原春沙が紹介されています。その後、日本の近代化に伴い崋山の業績が評価され、その弟子たちである「崋山十哲」が定着し、作品の人気も高まっています。しかし実際どこまで崋山が弟子として、その技術等を教えたのかよくわかっていません。

井上竹逸（1814～1986）は、幕臣に仕え、画を崋山に学び椿山・半香・栞谷とともに崋山四天王と呼ぶ場合もあるそうです。砲術家、また日本の琴の名手としての顔を持ち、文武両道の画家で知られます。彼の署名には彼の好きな琴を鳴らす「竹逸栞士」、まさに世俗から離れた文人という自分の理想的立場を表わしています。

これまでの履歴では、竹逸は山水・人物画を得意と紹介されています。しかし人物画をいまだ見た事がなく、残っている作品は山水画ばかりです。竹逸の山水画の特徴は、潤いのある点・線の描写です。伝統的な技術ですが竹逸の手にかかると、紙素材でありながら画面はピカピカと光る上質の絹織りのような画面効果となっています。ともに元治元年の春景山水図、秋景山水図は竹逸の特徴をよく表しています。

小田莆川（1805～1846）は、旗本の家臣です。崋山が蛮社の獄で捕われると、椿椿山と共に救済運動に奔走しました。記録から山本栞谷とともに、椿山が信頼を置いた友人のひとりであることがわかります。現存作品が少ないものの、崋山の弟子の中でも椿山とともに花鳥画に優れた画家であることが本展示作品を見るとわかります。美しい色彩の「桃に蘭図」の桃の表現は、明らかに椿山からの影響がわかります。「紅梅鴛鴦（おしどり）図」も、描き込みの多いにもかかわらず上品な作品となっているのも、椿山の影響でしょう。莆川没後、その遺品（本展示の客坐縮図）は椿山のもとで大切に保管され、椿山の弟子をへて現在に伝わっています。

ともに現存作品は少ないですが当館はこの両名の作品が充実しており、日本有数のコレクションです。それぞれ師の崋山にはない個性があり、注目し評価を高めたい作家です。



● 渡辺崋山 寛政5年(1793)～天保12年(1841)

江戸麹町田原藩上屋敷に生まれました。絵は金子金陵から谷文晁につき、伝統的な東洋画の画風に西洋的な陰影・遠近画法を加えた作品に評価が高い。40歳で藩の江戸家老となり、藩財政の立て直しを進めながら、江戸の蘭学研究の中心にいました。「蛮社の獄」で高野長英らと共に投獄され、在所蟄居となり天保12年に田原池ノ原で自刃しました。

● 椿椿山 享和元年(1801)～嘉永7年(1854)

江戸に生まれ、幕府槍組同心。崋山が最も信頼した弟子です。長沼流兵学を修め、また俳諧、笙、煎茶への造詣も深い。水彩画を思わす色調の花鳥画及び崋山譲りの肖像画を得意としました。

● 福田半香 文化元年(1804)～元治元年(1864)

遠州磐田郡見付（現磐田市）の出身で、天保年間に崋山の弟子となった。蛮社の獄では椿山らとともに救済活動の中心、田原蟄居中には崋山一家を助けました。花鳥山水いずれも得意としたが、椿山の描く花鳥に及ばないと考え、山水画を極めました。残された作品は豪快なもの、丁寧に描いた手堅いものも多く、当時の人気山水画だった半香の画をうかがうことができます。

● 斎藤香玉 文化11年(1814)～明治3年(1870)

上野国緑野村（現群馬県藤岡市）に代官斎藤市之進の子として生まれる。十歳で父と知己であった崋山につき、蛮社の獄では、父とともに師の救済運動に奔走しました。立原春沙とともに当時少ない女性画家でした。崋山没後は、彦根藩に仕えた佐竹永海（1803～74）に入門しました。